



セボネ

タガヤ ランティア ネットワーク
Setagaya Volunteer Network

特集

P.2-5

「プーラビダ」の国 コスタリカ自然探訪



まちの市民力!! P.6

学び舎トーカ ～好きを究める新時代の学び舎～



せたがや
災害ボランティアセンターレポート P.7

能登半島地震被災地で世田谷のコーディネーターが
ボランティアセンター運営に取り組んでいます



おたがいさまビュー P.8-P.11 ボランティア募集、講座・イベント・その他 お知らせ

「プーラビダ」の国 コスタリカ自然探訪



美しく舞うハチドリ

日本では中米の小さな国コスタリカは、「軍隊を捨てた」「平和憲法を持つ」国として知られるようになりまし。憲法9条で「戦力を保持しない」と誓った平和憲法が次第に危うくなると、文字通り「軍隊を持たない」コスタリカに注目が集まるのでしよう。軍事費に国家予算を費やす必要がない分を教育や医療、自然保護に回すことができている国。自然探訪から見てきたコスタリカの一面です。

エコツーリズム発祥の国

軍隊のない平和なコスタリカには何度か行く機会がありました。今回はあえて「自然探訪」がメイン。ボランティアセンターで毎月一回続けてきた「日曜科学クラブ」、他の科学クラブの仲間たちによびかけ、13人が10泊の旅を十分に楽しんできました。

コスタリカは中米に位置し、パナマとニカラグアの間にある九州と四国を合わせたくらいの面積をもつ国です。太平洋とカリブ海に挟まれたこの小さな国が世界で最も生物多様性に富んだ国で、地球全体の5%近くの生物種がいて言われています。哺乳類は227種類、鳥類は816種類、爬虫類は250種以上、両生類は186種類、昆虫はなんと30万種類以上！植物も13000種類以上で、蘭は1250種もあります。ほんの一部にしか出会えない数の

文責／星野弥生（セボネ編集委員）
写真提供／原田信也、石綿俊作

多さですが、20年以上現地に暮らしている「名ガイド」の原田信也さんが、イチ押しプランを立ててくれました。

国土のおよそ4分の1が国立公園や自然保護区に指定されているコスタリカ。そうした環境を活かす「エコツーリズム」もコスタリカから始まり、最も重要な産業となっています。「エコツーリズム」というと、「エコロジ」を体験するツアーと思われるがちですが、コスタリカのそれは、まさに「エコノミー」を生み出すもの。観光客が訪れる自然保護区では、動植物を知り尽くした現地ガイドが双眼鏡や望遠鏡を携えて、お目当ての鳥やサルを教えてくれ、まるで手品師のようです。

自然保護区への入場料は、外国人とコスタリカ人で差があります。観光で訪れる人たちから徴収したお金を、管理・運営などの膨大な仕事に回し環境保護に役立てよう

というのは、とても理にかなって
いるように思えます。

ケツアールやハチドリに会いまう

コスタリカには、大きく分けて
熱帯雨林、熱帯雲霧林、熱帯乾燥
林の三種類の森林があります。最
初に行ったサン・ヘラルド・デ・
ドータの森林は熱帯雨林。ロッシ
に泊まって、朝5時半にはケツア
ールを探しに行きました。コスタリ
カに行く人たちがまず見たい鳥は



原田信也さん (写真左)
筆者 (写真右)

ケツアールでしょう。ガイドはケ
ツアールが食べるリトル・アボカ
ドの木を探し、口笛のような声に
耳を澄ます。双眼鏡で狙いを定め、
望遠鏡を向けて私たちに「見て！」
と指し示します。30分くらいで
キャッチできた私たちはラッキー
でした。赤、青、緑、黄色の美し
い色で、オスは長い尾を木々の間
に垂らしています。手塚治虫の「火
の鳥」のモデルになったと言われ
る鳥。もちろんケツアール以外も
鳥がたくさん。安心して森の中で
かくれんぼっをしているようです。
熱帯雲霧林として有名なのはモン
テベルデ自然保護区。多量の湿
気を含んだ空気が雲、霧、雨となっ
て標高1300メートルの地に降
り注いで出来る森林は神秘的です。
コケが覆いつくす大木、多種の蘭
が花をつける森の中に400種類
もの鳥が住んでいます。7月は雨
期のため、午後はたいいてい雨が降
ります。雨期があるからこそ森林
が保たれ、また水力発電が主のコ
スタリカでは雨は不可欠のもの。
スコールのような雨の中、ハチド

リが超高速のホバリングをしながら
忙しく飛び回っています。

ここがエコツーリズムの聖地
となったのには、歴史がありま
す。アメリカのクエーカー教徒が
1951年の朝鮮戦争の折に兵役
を拒否して移住先を探し、たどり
着いたのがモンテベルデ。

非常に希少な生態系の発見によ
り、1972年にここが保護区と
してスタートし、土地を私有して
いた教徒たちは私設の自然保護区
として保護・保全し、その費用の
一部を観光収入でまかなうという
方法をとったといえます。未来を
見越していたかのように。牧畜業
も営み、独自のチーズを製造して
います。

こどもたちに永遠に森を残そう！

近くに「こどもたちの永遠の森
(※BEN)」という自然保護区があ
ります。世界44か国の子どもたち
の寄付と呼びかけで、23000
ヘクタールの土地を買い取り、保
全しているコスタリカで最大の私

※ BEN (Bosque Eterno de los Niños) の略

有の保護区で、地球上で最も生物多様性に富んでいるといえます。蘭もシダも蝶の種類も3%。鳥類は5%が見られ、また周りの共同体に水を供給し、水力発電の水源ともなっています。基金で必要な土地を購入し、経済的持続性の道を探りながら、子どもたちへの教育プログラムも進めています。

BPNZのグッズを取り扱うショップで、少しでも支援になるのならと買いました。パンフレットにはさまざまな支援の方法が書かれています。基金を出す、ボランティアをする、見に行く、調査をするなど。子どもたちが自然を学ぶ部屋ではゲームや本を使いながら環境を守っていく大切さを知ることができます。少し離れたところにある※CASEM（クラフト協同組合）は、地域の女性たちの手作りの製品やコーヒーを販売している店をもち、女性の経済的な自立を助けながら、地域の経済にも貢献します。エコツーリズムがここにも生きています。

モンテベルデ二日目は、吊り橋

ウオーク。四つの吊り橋は結構な高さのところであり、そこから見えるのは「樹冠」。つまりずっと下から生えている樹の上の部分の高さがちょうど目の高さになり、空中にいるような体験でした。

みどりの回廊

モンテベルデからはグアナカステ州へ行くと、コスタリカの国樹である大きなグアナカステがたくさん見られます。リンコン・デ・ラ・ビエッハ国立公園で二時間ほど歩いたトレイルはこれまでとは違い空が開けている明るい熱帯乾燥林。次はサンタロサ国立公園へ。原田さんは、20年以上前に「こどもたちの永遠の森」への日本からのツアーにたまたま参加し、そのままモンテベルデでボランティアをしながら住みついてしまったのですが、その後サンタロサの森を中心に研究活動をしていたアメリカのジャンセン博士のもとで様々な昆虫の標本を集め、分類するボランティアをしていました。

ここでの森林再生プロジェクトは、かつて伐採が進み、減少していた森林を取り戻そうとする計画で、焼き畑だったところを森林に再生しています。リンコン・デ・ラ・ビエッハとグアナカステ、サンタロサの三か所の国立公園は「緑の回廊」を成し、植林などを行いながら森を再生し、生物種が行き来できることを目的としています。「動物も



長い尾が特徴のホエザル。「5本目の足」として用いられる。ケツァールは、最も美しいと称される幻の鳥。

植物も人間と変わらなく大事にされていると感じた」と参加者の一人が言っていました。生きた動物たちの自由な行き来が保証されているコスタリカには動物園も植物園もないのです！こうした森林再生は評価され、稀有な世界自然遺産に登録されています。

家族経営の小さなコーヒー農園

コスタリカというと「コーヒー」でしょうか。訪れたドータ地方のコーヒー農園は2000メートル



ドータ地方の、モンテコパイコーヒー農園

の高さのところにあります。45度もある斜面にコーヒー農園を作りたいと言いついた父親に呆れながらも家族が助け合ってコーヒー農園を経営しています。

二年前に父親が亡くなり、6人の子どもたちがしつかり遺志を継いでいました。マイクロロットという小規模の豆の生産プロセスは手作り感が漂います。斜面にコーヒー豆の木を植え、豆を収穫するという重労働には、ニカラグアやパナマの人たちを雇っています。このように丁寧に作られるコーヒー豆は、スペシャリティ・コーヒーと特別な呼称がついたもの。価格もそれなりのものですが、作られる過程を知れば納得です。

コーヒー農園には家族経営のものも多く、仲介者が入らず、生産したものを直に販売するという顔の見える関係で、コーヒーの味もさらに豊かになります。

10日間、森林の中を歩き、ボートに乗り、川の両岸に次々と展開される動物や鳥たちのショーも楽しみました。上空を飛ぶたくさん

の鳥、川の中で泳ぎ岸に寝そべっているワニ、イグアナ、木々の間を縦横に行きかうサルたち。生物のいのちのゆりかごといわれるマングローブの林。動物、植物、人間への「いのちの旅」は本当に豊かなものです。

最後の日、サンホセで「選挙最高裁判所」を短時間ですが訪問しました。小さい時から、模擬選挙を経験させ、民主主義を自然に学んでいるコスタリカでは、「多様な」自然と「対話」をし、「寛容」な姿勢で「参加」し、そして自然と「連帯」する、という「民主主義」が、自然保全の場でも、そこの人の付き合い方にも生きているのを感じます。

コスタリカで一番多く聞かれる言葉は「プーラビダ」。「純粋な人生」です。こんにちは、ありがとう、さよなら、よろしく・・・いつでもどこでも使えるとても便利な言葉。生きてよかったね、というようなニュアンスでしょうか。まさに「プーラビダ」をまるごと感じた旅でした。

※ CASEM (the Cooperativa de Artesanas de Santa Elena y Monteverde) の略

学び舎トーカ ～好きを究める新時代の学び舎～



用賀中町通りに面した、玉川中町公園のほぼ向かいのビルの中階、ここに学び舎トーカの中町キャンパスがあります。学び舎トーカは2023年9月に開設した、いわゆる不登校児のフリースクール。若手のみなさんと運営されていて、今回は、代表の岡裕介さんにお話を伺いました。トーカとは、未来を照らす灯台になるよう、不登校でも生きやすい社会をつくりたいという想いで名付けたそうです。

トーカの大きな特徴は、不登校をポジティブに捉えていること。学校は、子どもたちが育つ手段の一つで、それ以外にも未来はたくさんあることを示したい。そして、

学校と違う選択をした子どもたちを「勇者」と捉え、そうした子どもたちでも学ぶこと・生きることの楽しさを感じられる場所にしたと言います。

トーカで大切にしていることは次の3つです。

①好きなものを題材に…我慢せず安心して過ごせる場所では自然と学ぶ意欲が出てくる。一日の活動スケジュールもその日の朝自分たちで決める。

②先生も子どもとの区別なく…上下関係を作らず押しつけず、何事もみんなで話し合って決める。

③自分の人生を自ら考え尽くす…自分で考え判断し振り返りをする経験ができる環境を作る。

また、人生に必要な様々な体験を子どもたち自ら学べるよう、屋外での活動やプレーパークでの遊び、野外合宿など様々なイベントも行っています。地域の人々もボランティアとして多く関わっているそうので、活動を手伝ったり、様々な職業を知るトークイベントを実施したりしています。

現在は小学生世代中心に25名の

子どもたちが在籍していますが、問い合わせも多いそう。そして、この9月には自由が丘にも新しく拠点を設けるとのこと。

不登校の「不」にはネガティブな意味がありますが、このようにニーズがあるのは、学校以外の居場所がほしいという子どもが増えているからではないでしょうか。

トーカでは、現場での活動の一方で、ニュースクールネットワークという、全国的なネットワーク団体を立ち上げ、こうした輪を社会に広げていこうとしているとのこと（10月26日（土）にニュースクールフェスを下北沢にて開催予定）。学校に行かないことが当たり前前の選択肢として認められる社会の実現に期待したいです。



せたがや災害ボランティアセンターレポート

能登半島地震被災地で

世田谷のコーディネートーターが

ボランティアセンター運営に

取り組んでいます

せたがや災害ボランティアセンターでは、石川県穴水町（あなみずまち）災害ボランティアセンター（以降「V.C.」）に災害ボラ



穴水町災害ボランティアセンターでの活動の様子

ンティアコーディネーターを5月16日から毎週金・日曜日に派遣しています。前号で掲載した協会職員によるレポートに続き、今回は現地V.C.の運営に取り組みられたコーディネーターの声の一部をご紹介します。（紙面の都合上要約して掲載）

* * *

「今回、運営側のお手伝いを通じて貴重な経験ができました。アプリを利用した無線対応や位置確認、データ管理などによりボランティアさんの状況を確認できる仕組みは、世田谷で災害が起こった際にも活用できると思います。」

2日目からは少し気持ちに余裕が出て、何をすべきか考えながら動けるようになったように思います。（Sさん）

* * *

「穴水町ではマニュアルも決めるもそれほどなく臨機応変に動いているので、「漏れ」や「不足」も出てきます。他方、穴水町災害ボランティアセンター（社協）の

方々が情報共有してくれるので、常に状況を把握して漏れや不足などの補充・フォローに努めました。きちんと記録に残すことの大事さを認識しました」（Yさん）

* * *

「同行者の中には初対面の人もいましたが、チームワークも良く、それぞれが自主的に動き、スムーズに活動ができたのではないかと思います。データ入力、人員不足案件の対応や現地調査など、フットワークも軽く、いろいろなことに対応できたと思います。」（Gさん）

* * *

コーディネーターの方々が、養成講座やスキルアップ講座等で学ばれたことを現地でフルに活用され、さらに知識と経験を高められていることが伺えて、世田谷にとっても心強い言葉と受け止めています。穴水町での活動は8月のお盆で一区切りになる見込みですが、今後でもできるだけ被災地に寄り添っていきます。

3歳半男児と日曜日に遊んでくださる方を募集

長年、夫の介護をしていらっしゃる70代女性が3歳半のお孫さんの育児を担うことになり、手助けを必要としています。お孫さんは平日保育園に通う、車と生き物が今のお気に入りの子です。日曜日に近所の公園や児童館などで1～2時間遊んでもらえると助かります。時間は応相談。上用賀在住です。月1回でも可能な方、まずはお問い合わせください。

- 日時/日曜日 ●場所/近所の公園や児童館（自宅は上用賀）
- 条件/交通費実費支給（上限500円）
- 問合せ/玉川ボランティアビューロー TEL：03-3707-3528
メール：tamabora@otagaisama.or.jp

宮の坂駅近くの小学6年女子の登校付き添いボランティア募集

世田谷線宮の坂駅近くに住む小学校6年生の女の子の登校に付き添ってくれる方を探しています。この女の子は集団生活が苦手なかなか学校に通っていませんが、唯一、木曜日の3・4時間目は出席したいと思っています。ただ、定時外は児童だけでの登校が認められていないので、どなたかのサポートが必要です。1学期までお願いしていたボランティアの方が引越したため、サポートできなくなりました。ご両親は仕事があり、登校の付き添いができません（下校はお母さんが付き添っています）。10時15分頃に自宅を出て、お話ししながら学校までの10分ほどを歩いて付き添ってくれる女性の方を求めています。詳細はお問合せください。

- 日時/木曜日10時15分から 10分程度 ●場所/宮の坂駅近くの自宅から学校まで
- 条件/女性
- 問合せ/北沢ボランティアビューロー TEL：03-3420-2520
メール：kitabora@otagaisama.or.jp

北烏山在住の小学生の勉強をみてる方を募集

北烏山にお住まいの小学3年生の女の子が、漢字や九九で苦戦しています。明るい女の子です。宿題などに楽しく取り組めるよう、女の子のペースに合わせて学校の国語や算数の勉強をみてる方を探しています。

- 日時/水曜日の18時30分から45分程度
- 場所/自宅（北烏山）
- 交通/京王線千歳烏山駅徒歩20分、京王井の頭線富士見ヶ丘駅徒歩11分
- 条件/女性、交通費応相談
- 問合せ/烏山ボランティアビューロー TEL：03-6909-0333
メール：karasubora@otagaisama.or.jp

幼稚園のお迎えをしてくださる方を募集

お母さんが出産のため、4歳児（男の子）が幼稚園バスを降りたところから自宅までのお迎えをお手伝いしてくださる方を募集しています（曜日によっては、直接幼稚園へ）。詳細は烏山ボランティアビューローまでご連絡ください。

- 日時&内容/
【月曜】15時10分に直接幼稚園（京王線つつじヶ丘駅徒歩6分）へ迎えに行き、電車まで自宅へ帰宅（粕谷2丁目）。
- 【火・木・金曜】14時45分ごろ仙川駅付近（徒歩3分）で、幼稚園バスを降車した4歳児を迎え、電車またはタクシーで自宅へ帰宅。10月ごろまでお願いしたいです。
- 場所/仙川駅付近（駅から徒歩3分）～粕谷2丁目
- 条件/女性を希望（大学生から60歳以下の方）、交通費負担
- 問合せ/烏山ボランティアビューロー TEL：03-6909-0333
メール：karasubora@otagaisama.or.jp

車いす利用者の付き添いにご協力いただける方を募集（北沢地域）

世田谷 2 丁目の 70 代男性が、出かける際に付き添ってくださる方を探しています。男性は読書や音楽鑑賞、人と会話することが好きな方です。日時は、主に【火曜】【水曜】【金曜】のいずれも午後で可能な日にお願ひしたいです（日曜日も応相談）。雨天時は中止しますが、小雨であれば出掛けます。男性とお話を楽しみながらお出掛けに付き添っていただける方、お待ちしております（男女不問）。ご本人との顔合わせ・初回とお試しの際はスタッフ同行予定です。詳しくは北沢ボランティアビューローまでお問合せください。

●日時・内容／

【火曜】 13:30 ～ 16:30（月 1 回程度）、自宅～通院先の病院～買い物など～自宅へ

【水曜】 or 【金曜】 13:30 ～ 15:30（2 週間に 1 回）、自宅～スーパーや図書館～自宅へ

●場所／世田谷・上町近辺 ●交通／東急世田谷線上町駅徒歩 7 分程度（ご自宅まで）

●条件／【火曜】の病院から帰宅の際は、区の緊急介護人へ登録いただきます。※手当あり（相談に応じます）

●問合せ／北沢ボランティアビューロー TEL：03-3420-2520

メール：kitabora@otagaisama.or.jp

【急募】児童館や通院の付き添いをしてくださる方募集

現在、3 か月と 1 歳の 2 人のお子さんを育てるお母さんが、肋骨を骨折してしまったため、治るまでの数カ月間、サポートをしてくださる方を探しています。医師からは安静にとの指示があるものの、幼い 2 人の子の育児は動かずにはいられません。内容は、午前中一緒に児童館や通院の同行、お買い物や同行など、週 1 回でも手伝っていただくと助かります。詳しくはお問合せください。

●日時／平日の午前中（応相談） ●場所／喜多見の自宅から徒歩圏内

●交通／東急田園都市線・大井町線二子玉川駅、または小田急線成城学園前駅からバスで 15 分程度 ●条件／女性希望、交通費支給

●問合せ／玉川ボランティアビューロー TEL：03-3707-3528

メール：tamabora@otagaisama.or.jp

車いす利用の男性の付き添いボランティア募集（玉川地域）

車いすを利用されている 70 代男性（上用賀在住）が、近所の理髪店へのお出かけを楽しみにしています。月 1 回（主に木曜日午前中）自宅と理髪店の往復で、車いすを押して同行いただける方を募集しています。所要時間は往復込みで 1 時間ほどです。詳細は玉川ボランティアビューローにお問い合わせください。

●日時／月 1 回（主に木曜日午前中）

●場所／上用賀 ●条件／報酬：1,000 円 / 1 時間（交通費込み）※区の緊急介護人に登録していただきます

●問合せ／玉川ボランティアビューロー TEL：03-3707-3528

メール：tamabora@otagaisama.or.jp

中学 1 年生男子と一緒に散歩してくださる方募集

知的障害がある中学 1 年生の男の子が、休日に一緒にお散歩や買い物をしてくださる方を探しています。人見知りもなく、明るい男の子です。月に 1 回からでもお手伝いいただくと助かります。詳しくはお問合せください。

●日時／日曜、祝日の午前中（2 時間程度、応相談）

●場所／玉堤周辺 ●条件／報酬：1,000 円 / 1 時間 ※区の緊急介護人に登録していただきます

●問合せ／玉川ボランティアビューロー TEL：03-3707-3528

メール：tamabora@otagaisama.or.jp

上記掲載記事は 7 月 20 日時点の情報です。
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

能登半島地震ボランティア活動報告会@三茶しゃれなあど

せたがや災害ボランティアセンターでは、能登半島地震において被災地支援ボランティア派遣のための街頭募金に始まり、3月から災害ボランティア派遣を実施、5月からは穴水町（あなみずまち）社会福協議会からの依頼を受け災害ボランティアコーディネーター派遣による災害ボランティアセンター運営支援を行ってまいりました。

これまでの活動の様子は本 HP 内でも紹介しましたが、この報告会では支援活動の経緯と実施内容を総括し、活動を通じて得た被災地での学びを参加した方々とともに振り返ります。どなたでもご参加いただけます。

- 日時／8月21日（水）19時00分～21時00分
- 会場／三茶しゃれなあど オリオン（世田谷区三軒茶屋1丁目41-10） ※昭和信用金庫三軒茶屋支店5階 ●交通／東急田園都市線三軒茶屋駅（南口A）から徒歩3分 ●参加費／無料
- 申込／8月19日（月）までに、右記二次元コードから、または問合せ先にご連絡ください。
- 問合せ／せたがや災害ボランティアセンター
TEL：03-5712-5101



災害ボランティアコーディネーター養成講座（基礎編）@国土舘大学

2024年度2回目となる「災害ボランティアコーディネーター養成講座 基礎編」を国土舘大学にて開催します！ 内容は講義・模擬訓練、世田谷区の災害対策、災害ボランティアの活動内容（世田谷方式）等を学びます。

- 日時／9月14日（土）13時30分～16時30分 ※13時より受付開始
- 会場／国土舘大学世田谷キャンパス 34号館（梅丘2-8-17）
- 交通／梅ヶ丘駅徒歩9分 ●参加費／無料
- 申込／9月12日（木）正午までに、右記二次元コードから、または問合せ先にご連絡ください。
- 問合せ／せたがや災害ボランティアセンター
TEL：03-5712-5101



傾聴ボランティア養成講座@砧ボランティアビューロー準備室 参加者募集！

お話し相手を必要としている方を訪ね、継続的にお話しを聴く“傾聴ボランティア”を養成するための講座です。ワークやロールプレイなどの体験学習を中心に、話すこと・聴くことをグループで考え、自身の気持ちを感じながら学んでいきます。申込は9月2日（月）午前11時から電話で受け付けます。

- 日時／9月25日、10月2日、10月16日、10月23日、10月30日の全5回（全て水曜日 13:30～16:30）
- 会場／成城6丁目事務所棟 1階活動フロアー（世田谷区成城6-3-10）
- 交通／小田急線成城学園前駅北口下車3分
- 参加費／8,000円（全5回分を初回時にお支払いください。支払い後の返金はいたしません。）
- 条件／講座修了後にボランティア活動ができる方。
- 申込／9月2日（月）午前11時から電話で受け付けます。
- 問合せ／砧ボランティアビューロー準備室 TEL：03-6411-4007
e-mail：kinutabora@otagaisama.or.jp

「里親って?説明会」開催のお知らせ

『里親制度って、聞いたことはあるけれど、詳しいことはよく知らない。』さまざまな事情から実家庭で生活できない子どもたちを家庭で預かり、一定期間育てる「里親（養育家庭）」里親は子どもにとっての「居場所」となり、生活の基盤を支える大きな存在となります。里親の子の生活を支えている一職員から、実際の生活の様子を交えながら紹介します。里親（養育家庭）について知りたい方、登録要件を知りたい方、実際の生活の様子を知りたい方の参加をお待ちしています。詳細はお問い合わせください。

- 日時／8月9日(金)18時30分～19時30分
- 会場／オンライン開催 ※お申込みいただいた方に参加用URLをお送りいたします。
- 参加費／無料
- 問合せ／東京育成園 フォスターホームサポートセンター ともがき
TEL：03-6379-2167
e-mail：t-recruit@to-iku.or.jp

市民活動・NPO相談

世田谷区内で活動を始めたい方や、すでに活動している方を対象に団体、個人を問わず、グループ・団体、法人の立ち上げや運営に関する基礎的な相談・情報提供を行っています。相談をご希望の方は問合せください。また会計、税務、契約、社会保険、雇用、法律の専門相談も行っています。(原則として事前予約制です)

- 問合せ／最寄りのセンター、および各ビューローにご連絡ください。電話番号は裏表紙参照、専門相談はセンターにお問い合わせください。

個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをつなぐ橋渡しをしています。困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決できるのかわからないという方は、ぜひご相談ください。電話でお話ししながら、どんなことができそうか、どんな解決方法がありそうか、一緒に考えます。

- 問合せ／世田谷ボランティアセンター TEL：03-5712-5101
メール：v-soudan@otagaisama.or.jp

個別の学習支援を必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、「発達障害や学習障害の傾向があったり、不登校の経験があり、学習の理解の面で苦労をしている」「勉強に向き合うことが苦手。学校の授業についていけない」などの相談を受け、小学生～高校生の個別の学習支援に取り組むボランティアを探して紹介しています。現在は、オンラインでの学習支援にも対応しています。勉強への気持ちや、学ぶポイントなど、本人のペースや特徴を尊重していきます。お気軽にご相談ください。

- 問合せ／世田谷ボランティアセンター TEL：03-5712-5101
メール：v-soudan@otagaisama.or.jp

AIシステムによるマッチングサイトのお知らせ

「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」という、ボランティア活動をしたい方の経験や意欲などと、サポートを求める方や団体などを、東京大学先端科学技術研究センターが開発したAIシステムによるマッチングサイト(世田谷版GBER「ジーバー」)で結び付け、ボランティア活動を支援します。

詳細は右記二次元コードからご覧ください。



上記掲載記事は7月20日時点の情報です。
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点



相談・お問い合わせ先

- ボランティアについて ▶ 【世田谷ボランティアセンター、各ボランティアビューロー】
- 災害ボランティアについて ▶ 【せたがや災害ボランティアセンター】
- リハビリについて ▶ 【ケアセンターふらっと、ケアセンター with】
- 訪問介護について ▶ 【ケアステーション連】
- 介護プランについて ▶ 【ケア相談センター結】
- 障害について ▶ 【ぼーとせたがやスペース ココカラ。】

ご意見・ご感想等お寄せください

皆さまのご意見・ご感想などをお待ちしております。「こうしたボランティア情報が読みたい!」などもございましたら、お気軽にお寄せください。今後の参考にさせていただきます。



協会ホームページ、
Facebook、Instagramは
こちらの二次元コードから



ホームページ



Facebook



Instagram

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。